

が見つけた遠隔授業での学び

本企画は、遠隔授業を受けている福大生の皆さんにインタビューし、遠隔授業での学びや大学生活について紹介するものです。学生の皆さんには、同じ学友としての仲間が苦勞しながらも頑張っている姿をとおして、少しでもヒントを得てもらえればと思っています。七隈キャンパスに集えない状況ですが、福大生たちが共に学んでいる様子をお伝えしていきます。



経済学部産業経済学科
2年次生
野元 海里 さん

Case6：自分なりの工夫とともに“ルーティン”を組む

今回のインタビューは、経済学部・産業経済学科2年次生の野元 海里さんです。演劇部に所属し舞台監督を務めた経験を持つ野元さん。そこで身に着けたスケジュール管理能力を活かして、前期の遠隔授業下を乗り切ったそうです。「やらなきゃ！」と気合を入れないとなかなかやる気が出ないこともあったようですが、そんな状況を抜け出すために行った野元さんなりの様々な工夫を教えてくださいました。

遠隔授業の準備は自分なりの工夫とともに

SNSで他大学の情報が入ってきていたこともあり、「福大も授業開始日や授業方法とか変わっちゃうのかな」と気になっていたため、FUポータルのお知らせは気を付けて確認していました。Wi-Fi環境は整っていたし、スマートフォンとタブレットも持っていたので、遠隔授業になったからといって「急いで何かしなきゃ！」というわけではありませんでした。ただ、これまでは自分の部屋で勉強をする習慣があまりなかったため、机を片付けたりはしました（笑）机の狭さをカバーするのに、プリントをまとめるためのバインダーを買ったり、プリント類をファイルにまとめたりといった自分なりの工夫をして、遠隔授業に臨んでいます。



遠隔授業中の机周りの様子

同じ授業をとっている友人がいて「一緒に頑張ろう！」と言ってたんですけど、結局遠隔授業になってしまって、この会えない状況はすごく残念です。今は朝（1限に）起きられているかどうかを互いに確認したりしています。

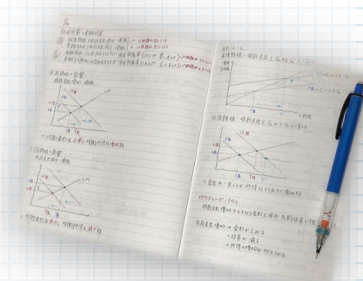
理解が深まる遠隔授業

オンデマンド型授業は、聞き取れなかった部分を見返すこともできるので、すごく受けやすいです。全部が全部、「遠隔授業が良い！」というわけではないんですけど、普段は通学に1時間かかっていたので、その時間を有効活用できるようになったこともよかったと思っています。

授業によっては対面授業より楽しくて理解しやすいものもありますね。例えば、20分の動画（スライド+音声）を視聴した後に自分で例題を解く授業があるんですけど、計算問題を解くことがメインの授業なので、板書よりもスライドの方が見やすかったり、わからない部分は巻き戻して確認できたりもするので理解しやすかったです。動画は時

間割通りの授業時間中にしか見られないんですけど、20分の短い動画なのが良くて、自分なりにノートをとつつ丁寧に確認しながら見ることができました。おかげですごく理解が進みますね。また、項目毎に確認テストがあったこともあり、知識定着の観点で取り組みやすい授業でした。

他にも、授業の冒頭で前回の課題の解説や学生からの質問に回答する時間を設けてフィードバックしてくださる授業では、他の受講生が考えていることもわかり、より深く授業を理解することができたと思います。



「マクロ経済学」のノート

苦勞しているのは学生も先生も一緒

リアルタイム配信型の英語の授業には一番苦勞しました。基本的には授業中に英語しか話さない外国人の先生で、「グループで話し合ってください」などの指示が英語であった時は、画面越しなのも影響してか、英語だけの指示だと理解できない（汗）ことが度々ありました（後にチャットでも指示を出してくれるようになりました）。加えて、カメラをオンにするよう指示があった時にはオンにたくない学生も結構多くて、その押し問答でなかなか授業が進まないことが何度かありました。学生側も家にいるとやっぱり色々油断している（部屋着だったりなど）とも思うので難しい問題ですよ。

1回あたりの動画が長いオンデマンド型の授業にも苦勞しました。15分ほどの動画が3つ程度の授業は問題ないのですが、ある授業では40分の動画が2つアップされていて、画面を延々と見続けるといけない状況がつかったです（汗）対面授業時も1コマ90分なので時間的には変わらないはずなんですけどね、画面を見続ける行為が余計つらく感じさせるのかなと思います。

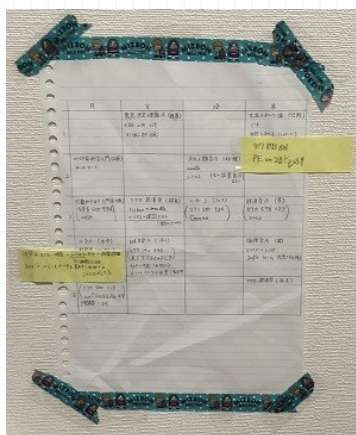
オンラインツールを使いこなしている先生もいれば、不

慣れな先生もいたように思います。ツール設定に関するメール（例えば、「課題提出用のフォルダを作りました」といった類のメール）で何度もやり直しのメールが送られてくるのを見ていると初めて遠隔授業をされる先生方の苦労も垣間見えました。遠隔授業に苦労したのは学生だけじゃないのかもしれませんが。

遠隔授業を受ける上でのmyルール

私は少しサボり癖があるのでオンデマンド型授業だと後回しにしがちで、気合を入れないとなかなかできない状況はちよくちよくありました（苦笑）そんな状況を抜け出すために、1限がない日には早朝にバイトをし、ご飯を食べて2限から授業を受けるというルーティンを組んで、1週間の流れができるだけ一定になるように努めています。また、パソコンの画面を見やすいように配置すること、メモをとれる環境にすること、授業開始5分前に準備を終えることは意識して遠隔授業に臨んでいました。ちなみに、早朝バイトの後の授業ではエナジードリンクを飲むこともしばしば・・・（笑）

遠隔授業は、課題をきちんと出さないと評価してもらえないんじゃないかという不安が常にあったので、課題については友人によく確認していました。私だけでなく周りの友人も**対面授業時よりも課題に対して敏感になっていた**ように思います。課題提出については、授業によって提出の際に使用するツール（Moodle、FU_box、メールなど）や提出データの種類指定が授業によってバラバラで少し混乱したこともありました。そこで自作の時間割を作って、その枠の中にミーティング番号や使用ツール（MoodleやFU_box等）をメモして自分なりに管理し、壁に貼っていつでも見えるようにしていました。



授業の基本情報を整理した時間割

課題を出す機会が増えて、ある意味強制的にやらないといけない状況に追い込まれているからやっているようなところもあって、自主的とは思えない自分がいます。もちろん、追い込まれたらやるんですけど、まだまだ積極的にはやれてないので、頑張らないといけないと思っています。ただ、**いつも以上に自分でスケジュール管理をしないといけない遠隔授業下でも、ある程度は乗り切れたのでそれは自信につながったかな**と思います。

演劇部で学んだこと

小学生から高校までは剣道をやっていたんですけど、大学では新たな挑戦として“ものづくり”をする演劇部に入り

ました。去年は舞台監督（裏方の責任者のような役割）を務め、スタッフや演者のスケジュール調整や宣伝などを担当していました。

演劇部は、個人競技でなく一つの集団として作品をつくるので、スタッフと意見をすり合わせて、みんなで力を合わせて一つの作品をつくるのが面白いです。また、たくさんの人が関わっていることもありマネジメントの勉強もできるのも自分のためになります。個人競技である剣道とは違うことを学べている気がしています。

改めて感じた通学することの意味

ちょうど今年の4月から少しずつ就職活動や資格取得に向けて動こうと思っていたんですけど、コロナの影響で動き出せないでいます。普段だったら、ちょっと興味が出たら、図書館や就職・進路支援センターに気軽に行けると思いますが、今はそれができません。自分で「これをやろう!」と決めて突っ走れる人はオンライン環境下でも様々なサポートを活用できるんでしょうけど…、ちょっと興味があるくらいだとオンライン環境下かつ一人ではなかなか恐くて一歩踏み出せない部分はあると思います。大学の施設やサービスを利用できる環境があることは、恵まれているんだなと感じています。

パソコンが得意な友人が、オンラインのプログラミングの講座を受け始めたということを知って、「家でも受講できるんだ!」と驚きました。私もこの状況だからといって何もせずにじっとしているわけにはいかないので、最近パソコンも買ったことだし、タイピングの練習や、エクセルなどのオフィスソフトを使えるように頑張ろうかな、と思っているところです。

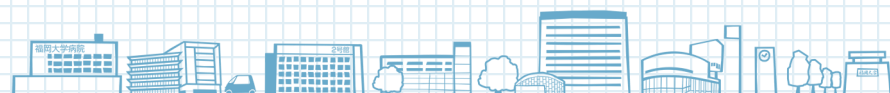
福大生へのエール

まずは自分から発信してみよう!!

入学するなりこの状況で、知り合いもおらず困っているという1年生は少なくないと思います。まずは、どんなかたちでもいいので、わからないことを自分で発信してみてもどうでしょうか。予想以上に、答えてくれる人、対応してくれる人はいると思います。自分から連絡をすることは難しいし勇気がいりますが、私の経験上、やってみたほうが得をする、自分のためになることは多いです。はじめからメールを送るのはハードルが高いと思うので、SNSもうまく活用したらいいと思います。



注：Webでインタビューさせて頂いた内容を元に再構成しています。
文責は、インタビュー担当者にあります。



編集・発行：福岡大学教育開発支援機構（A棟地下1階）

内線：2852・2853 E-mail：kyokiko@adm.fukuoka-u.ac.jp

HP：http://www.idshe.fukuoka-u.ac.jp/ Twitter：@fu_idshe

令和2年9月30日発行